

所在地：鳥取県智頭町 選定年月日：平成30年2月13日 面積：1,810.6 ha 選定基準：一(三)

(1) 概要

智頭における植林は、江戸時代に入り鳥取藩によって多くの山は管理され、山林の減少が原因とされる大洪水や飢饉などの被害が相次ぎ、災害対策と産業振興として杉の植林が盛んに進められました。

智頭の林業にとって最も重要であったのが、積雪地帯であるこの地に生息していた天然杉を利用して明治期において育苗技術が確立されたことでした。この技術確立により、明治期に植林された100年生を超える杉の人工林が豊富に残っており、その後の大正時代から戦後の造林期に植えられた植林も多く、高齢、若齢人工林と高い山々には天然杉と広葉樹林が混じりあった森林景観を形成しています。

また、林業を生業として暮らしてきた芦津(あしづ)集落は茅葺民家や土蔵などが多く現存しており、集落を取り囲む森林は林業集落ならではの景観です。また、森林資源で財を得た石谷家(いしたにけ)住宅を中心とした宿場町も当時から現在に至る往來の面影を残す歴史的景観を形成しています。さらに木材の運搬手段とした千代川、森林鉄道、旧街道にも往時の生業の姿が垣間見られます。

このように林業という中心的産業を通じて、森林・山村集落・宿場町・流通往來景観など多様性に富んだ景観が形成され、中山間地における造林の典型的な林業景観です。



天然林と人工林から成る山林



智頭宿とその周辺



石谷家住宅



慶長杉周辺の杉林

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：52件
- ・ 国指定等文化財：石谷家住宅（建造物）
- ・ 国登録有形文化財：智頭町消防団本町屯所・中町公民館・下町公民館・旧塩屋出店・米原家住宅（建造物）
- ・ 国登録記念物：石谷氏庭園（名勝）

（３）選定による効果

選定後、重要文化的景観の整備活用計画を策定する際には、専門家が集落に出向き、文化的景観の調査を実施しました。その調査内容を基に集落の変遷などをまとめ、住民向けに報告会を開催したところ、集落への新たな気づきや関心が高まりました。

また、文化的景観の制度を活用し、外観が劣化していた公民館や危険な状態であった住宅の塀などを修理したことで、選定エリア内の美観と安全性が向上しました。大規模な修理時には、施工箇所を高校生が見学し、文化的景観と文化財修理について学ぶなど教育にも活かされています。



住民向け調査報告会



修理された門及び塀

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 智頭町の林業景観保存調査報告書（平成29年3月）
- ・ 智頭町の林業保存計画（平成29年3月）
- ・ 智頭の林業景観整備活用計画（令和4年3月）
- ・ ホームページ

<https://www1.town.chizu.tottori.jp/chizu/kyouiku/27/e934/v216/>

（５）活用事例

事例31-01 ①

ストレス社会からの“疎開”を打ち出した、森を活かした施策の推進

●行政と住民等の協働による取り組み

智頭町のキャッチフレーズは、“みどりの風が吹く疎開のまち 智頭”で、現代のストレス社会から疎開できるまちとして様々な施策に取り組んでいます。まちの総面積の9割以上が山林で、スギをはじめとする見渡すかぎりの緑が一面に広がります。その山林を貴重な財産として捉え、産業・教育・観光に活かしています。

特に、森のもつ癒し効果に着目した「森林セラピー」をまちづくりの主要なテーマの一つと位置づけ、基本計画を策定し、智頭町森林セラピー推進協議会の設立や智頭町森のガイドの養成などを行っています。

選定範囲内には2箇所の森林セラピーロードがあり、町内外から多くの方が癒やしを求めて来訪します。このうち「芦津セラピーロード」は、過去に木材の搬出で使用されていた森林鉄道の軌道跡を活かしたコースです。清流の音を足下を感じながら、対岸の広葉樹と針葉樹の混交林や滝、巨木の広場などのセラピースポットが次々と展開します。

智頭町森のガイドの声

お客様と一緒に智頭の森を歩き、身体・心がリラックスできるよう導きます。智頭林業によって形成された美しい景観の中でリフレッシュしていただきたいです。



芦津森林セラピーロード（沖ノ山森林鉄道軌道跡）



巨木広場



智頭町森のガイドの会による森林セラピー



智頭杉の曲げわっぱに地元食材が鮮やかなセラピー弁当

団体等情報：智頭町森林セラピーホームページ

https://www1.town.chizu.tottori.jp/chizu/sanson_saisei/therapy/

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり・

（５）活用事例

事例31-01 ②

住民自治を实践！「智頭町百人委員会」

●行政と住民等の協働による取り組み

智頭町の自立度を高めて、活力ある地域づくりを進めていくためには、町政へ住民の声を反映していくことが必要であることから、平成20年に「智頭町百人委員会」を設置しました。

「知恵がなければ人から借りる」という考えから生まれた智頭町百人委員会は、住民が身近で関心の高い課題を話し合い、これを解決するための政策を行政に提案していく組織であり、智頭町ならではの住民自治の実践を目指します。

智頭町百人委員会により立ち上がった事業

【森のようちえん まるたんぼう】

森のようちえんとは“森”という環境を生かした幼児教育で、智頭町の豊かな自然をフィールドに保育を行っています。森のようちえんを求めて全国から移住する方が増えています。

【木の宿場プロジェクト】

「軽トラとチェーンソーで晩酌を」を合い言葉に、間伐材や林地に放置された残材を出荷し、地域通貨「杉小判」で買い取るシステムです。森林の景観保全と地域経済の循環などに繋がっています。



智頭町百人委員会企画提案会



森のようちえん まるたんぼう



木の宿場プロジェクト



地域通貨「杉小判」

団体等情報：智頭町ホームページ「智頭町百人委員会ページ」
<https://www1.town.chizu.tottori.jp/chizu/kikaku/mezasu/4/>

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり・